

令4-02 ダイバーシティ推進委員会議事要旨

日 時 令和4年9月27日(火) 10:00 ~ 10:58
場 所 オンラインにて開催
出席者 村田副学長(委員長)、森脇、國仲、宮田、江藤、水谷、駒田、宇野、下村、原各委員
欠席者 小川、福崎、小畑各委員
陪席者 笹岡人事労務課長、盛人事労務チーム副課長、山本人事労務チーム副課長、中島ダイバーシティ推進室副室長、落合同室員

冒頭に委員長から、当初第2回の本委員会を7月ごろに開催する予定であったが、「三重大学ビジョン2030」の策定とともにダイバーシティに関する基本方針を定める必要があるということになり、ダイバーシティ推進宣言、同推進計画や数値目標等の案の作成等のため、本日まで開催が遅れてしまったとの説明があった。

○協議事項

1. 三重大学ダイバーシティ推進宣言(案)について

委員長から、資料1について、以下の説明と発言があった。宣言としては短めにし、基本方針は、一文が多少長いが三つにまとめてたたき台としている。一つ目は、多様性を尊重し受容する意識の啓発、社会への情報発信、関係機関との連携協力を、二つ目は、大学としての体制の整備と環境の整備について、三つ目は、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた支援について述べている。このダイバーシティ推進宣言は、三重大学が実施することなので、大学として推進するという考えをベースにご意見をいただきたい。

主な意見交換の内容は以下のとおり

- ・基本方針の2について、国籍、性別、年齢等という風になっているが、性別だけで、性的指向というような観点はいらないのか。

- ・他大学の例でも、多くの項目が記載されているのもあったが、最後の「等(など)」というところに含めてしまい、性別の中にも大きく性的指向などの内容も含めたつもりでいる。ダイバーシティ推進というの、「多様性と受容」と書いたとおりインクルージョンが含まれているという広い意味でのダイバーシティと捉えているが、修正した方が良いとの意見が多ければ、タイトルも含めて見直していきたい。

- ・性別というと、男性か女性かということになってしまうが、社会学的な理解では、性別と性的指向は同じではなく、また、性的指向が性別に含まれるものではない。

- ・国籍と人種・民族というのは本来違うものなので、どこまで書くかということはあるが、国際的な基準で言うと、項目が少ないという感じはする。

- ・性別に関しては、性自認と性的指向については多くの大学が記載していることと、ダイバーシティを議論する時には、やはり性別だけではなく、性的指向や性自認については大きなトピックになっているため、明示する形でも構わないと考える。

- ・場合によっては英語化する場合も考えられるので、英訳した時にもおかしくないようなパターンで作成する必要がある。

- ・三重大学として、具体的にどういうところをカバーしたいのか、誤解の無いように全部入れてしまう方が後悔はないと思う。

- ・九州大学の例で肌の色が挙げられていたが、人種というのは肌の色の差異も含むと理解されているので、記載する必要はなく人種だけで良いと思う。

最終的に、基本方針の2に記載の項目は、人種、民族、国籍、性別、性的指向、性自認、年齢、障害、宗教とされ、ダイバーシティ推進宣言(案)は承認された。

2. 三重大大学ダイバーシティ推進計画（案）について
3. ダイバーシティ推進アクションプラン（案）について

委員長から、資料2の推進計画(案)と資料3のアクションプラン（案）も併せて協議したいとの発言があり、以下の説明があった。

資料2の推進計画は、基本方針から定めた目標で、一つ目が意識啓発、情報発信、協調・連携という形で、二つ目が環境整備とそれに対する制度設計、三つ目がワーク・ライフ・バランスについての支援となっており、それぞれに対策が書かれている。資料3のアクションプランには、さらに具体性を持った形で取り組みが書かれているが、該当する対策として考えられる案として挙げているもので、本委員会と推進室が担うような内容ではない事項も多く、それらについては実際の担当部署で精査したものが加わり、最終的なアクションプランになると思うので、この資料に加えるようなアイデアや修正点などがあればご意見をいただきたい。

以下の質疑応答があった。

Q：目標2の数値目標は「〇〇%以上とする。」となっているが、ここにはどのような数値が入る予定なのか。

A：資料4が説明資料になるが、この数値については、執行部のお考えなり、社会的目標もいろいろあり、ガバナンスコードでも数値目標を求められているので、これらのダイバーシティに関する数値目標を掲げて定める必要があるため、ここに記載している。

続いて委員長から、ポジティブアクションを本当に実施できるのかどうかは、最終的に各学部や人事部署の考え或いは執行部の考えだと思うが、一応実施できそうなアイデアを複数書いて、委員会（案）として提出したいので、アイデアをいただきたいとの発言があった。

種々意見交換の結果、推進計画（案）及びアクションプラン（案）は承認された。

4. ダイバーシティ推進に係る数値目標について

委員長から、資料4について、女性教員、若手教員、外国人教員別の数値目標に関する資料を人事チームで作成し、企画経営会議において検討を行ったことの報告があり、続いて資料の説明があった。最初の女性教員比率のグラフは、全国立大学法人の平均推定値、国大協の目標値、現状における三重大大学の推定値及び目指す目標値のシミュレーションとなっている。学長は、本学の目標値を、2030年度の全国の推定値よりももう少し高い数字を考えたいとの意向である。さらに、学長・理事・副学長における女性比率は、国大協の目標値と同等の20%以上を、大学の意思決定機関における女性比率についても、国大協目標値と同等の20%以上を目指すというお考えである。次の若手教員比率については、全法人平均の方が三重大大学よりも上回っている状況にあり、政府目標は、2025年に2021年度比1割増しの26%で将来的に30%以上にすることとしている。本学も2021年度比の一割増が達成すべき数値となるが、2030年度は推定値とするかもう少し意欲的な数値にするかは、本学教員の年齢構成に照らして再度シミュレーションをしてから検討することとしている。外国人教員については、順位が、一番低いところから3番目となっているので、取り敢えず現状の3倍を目標としたいとされている。

続いて次の質疑応答及び意見交換がなされた。

Q：前回の会議では、女性教員比率について、2026年度の目標達成までに80名の採用が必要されていたが、本日の資料4のグラフでは、意欲的な目標を達成するのに2030年度までに71名が必要とある。この違いについて教えてほしい。

A：(人事担当から回答) 今回の資料の数値は、現在の全教員における女性教員に対して何名増やすと目標値に達するという数値で、前回資料の80名というのは、定年退職、自己都合退職された方を補って、目標の女性教員比率とするには80名の採用が必要となるというもので、数字の性質が異なるものである。

・採用率とか年齢構成上の男女比というのも含めて、人数のことについては再考してみる必要があるかも知れない。

・(人事担当) 定年退職、自己都合退職の見込みを含めて、女性教員比率を目標値に設定した場合の採用割合のシミュレーションでは、大学全体で3割から4割ぐらいとなっている。

・人文学部は比較的女性教員の比率は高いが、大学全体の女性教員採用割合を3割とか4割にするということになると、人文学部にさらに大きな目標が課せられる可能性がある。採用率5割というのはもう限界で、法律経済学科を含んでいるということと、定員削減があるので、補充の人事が起これるとは限らないという問題がある。アクションプランを達成できず大学の評価を下げてしまう恐れもあるので、ご配慮願いたい。

・定削があるので確かに分母が変わる可能性はあるが、一方で採用率の3割、4割が平均になると、全体的に頑張らないと困ることになる。頑張り具合の低い部局は当然だが、女性教員比率が比較的高い人文系或いは教育系についても同じように頑張っていただく必要があるのが実態である。自然科学系は、もともと学生の女性割合自体が低いので、いかに理系人材を増やすかという課題との兼ね合いになるので、みんなで頑張っていくしかない。そんな中で、頑張っている部局をどういう形で支援していくかという総合的な話になる。発言されたご意向は、役員の方にもその旨伝えたい。

本件については、数値目標が確定していないが、検討の方向性については了承された。最後に委員長から、資料の1から3についてもう一度ご確認いただき、加筆或いは修正などご意見があれば、今月中に推進室までご連絡をいただきたい旨、発言があった。

5. その他

なし

○報告事項

1. 育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成について

委員長から、資料5について、本事業の助成期間が10月1日からとなるため、9月の第2週に11名に対し助成することとさせていただいたことの報告があった。なお、助成率は75%とし、それに伴って推進室の予算から補填することの補足説明があった。

2. 全国ダイバーシティネットワーク組織東海北陸ブロック会議について

委員長から、資料6について、8月25日にZoomで開催され、推進室からも小畑先生、江藤先生、中島副室長及び室長が参加したこと及び名古屋大学が幹事校で今年度の活動として前期と後期に1度ずつ会議を開催し、講演会等も企画されているとの報告があった。

3. 令和4年度津市男女共同参画フォーラム「わあむ津」について

委員長から、資料7について、11月26日の土曜日に津リージョンプラザで開催され、三重大学としても展示によって活動紹介を行う予定としていることの報告があった。

4. その他

委員長から、資料はないが、本年度皆様にお世話になった共通教育の「男女共同参画と多様性」の授業について、来年度の授業計画を出す時期に来ており、今年度と同じタイトルで行きたいと思っているので、これから授業計画表を作成するにあたってご協力をお願いしたい旨依頼がなされた。また、授業テーマの変更がある場合は推進室までご連絡をいただきたいとの発言があった。

以上